【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-502064(P2005-502064A)
【公表日】平成17年1月20日(2005.1.20)
【年通号数】公開・登録公報2005-003
【出願番号】特願2003-526561(P2003-526561)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　35/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　35/00　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成17年8月4日(2005.8.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの端壁に取り付けられた弱化ブリッジを含むフラグ部材を有する未使用の容器を用意する段階と、
上記未使用の容器がアナライザ上へ設置されたときに上記弱化ブリッジの変位を信号で知らせるようにしてあるセンサ・プローブで弱化ブリッジを変位させる段階と、
信号値が未使用の容器のためにあらかじめ決定された信号値範囲の外にあるかどうかを決定するために、該信号を分析する段階と
を含む、少なくとも１つの端壁を有する試薬容器がアナライザ上へ設置されたときに、該試薬容器が使用済みであることを決定する方法。
【請求項２】
信号値が未使用の容器のためにあらかじめ決定された信号値範囲の外にあるときにはいつでも、アナライザに容器を自動的に排出させることをさらに含む、請求項１の方法。
【請求項３】
信号値が未使用の容器のためにあらかじめ決定された信号値範囲の外にあるときにはいつでも、アナライザに自動的に警告を発生させることをさらに含む、請求項１の方法。
【請求項４】
信号値が未使用の容器のためにあらかじめ決定された信号値範囲の外にあるときにはいつでも、アナライザに自動的に待機作動モードに入らせることをさらに含む、請求項１の方法。
【請求項５】
弱化ブリッジが少なくとも１つの該端壁に取り付けれられた２つのパイロン間に装着されている、請求項１の方法。
【請求項６】
センサ・プローブが、それを弱化ブリッジと接触させたときにプローブが受けた変位量を示す電子信号を発生するようにしてある変位読み取りトランスデューサを含む、請求項５の方法。
【請求項７】
該ブリッジが、センサ・プローブに抗して容器を移動させることによって、パイロン間の未使用位置からパイロン間の使用済み位置に再配置される、請求項６の方法。

【請求項８】
２つの側壁間の第１の端壁から第２の端壁までほぼ細長いくさび状に全体的に先細りとなっている容器ストリップの形態をした多区画式試薬容器であり、少なくとも１つの端壁に取り付けられる弱化ブリッジを有するフラグ部材を含む容器。
【請求項９】
該弱化ブリッジが少なくとも１つの該端壁に取り付けられた２つのパイロンの間で装着され、ブリッジおよびパイロンが端壁に近接した開放領域を確定する、請求項８の容器。
【請求項１０】
弱化ブリッジが、開放領域に隣接するブリッジの中央付近に形成された切欠きを含む、請求項９の容器。
【請求項１１】
弱化ブリッジが、さらに、パイロンと結合するブリッジの端部に形成された一対の尖点を含む、請求項１０の容器。
【請求項１２】
尖点が、ブリッジの切欠きとは反対側に形成される、請求項１１の容器。
【請求項１３】
弱化ブリッジが、開放領域に隣接するブリッジの中央付近に形成された切欠きを含む、請求項５の方法。
【請求項１４】
弱化ブリッジが、さらに、パイロンと結合するブリッジの端部に形成された一対の尖点を含む、請求項５の方法。
【請求項１５】
尖点が、ブリッジの切欠きとは反対の側に形成される、請求項１４の方法。